

※一般質問の内容は、議員自身が9月定例会議事録に基づき記述しています。



うえまつ けんいち
植松 健一
(至誠)

消防救急車の適正利用について

問 救急需要の現状は。

部長 令和4年は新型コロナウイルス感染症第6波、第7波の影響を受け、9月30日現在、昨年同期比で764件増加となり、過去最高出動件数であった令和元年を超え、6000件を上回る状態となっている。

問 適正利用のための対策は。

部長 救急車の適正利用について「広報ふじのみや」への掲載や、公共施設、医療機関への救急車適正利用ポスターの配布及び掲示依頼、また富士宮市公式ラインを活用し、登録者に適正利用についてお知らせを実施した。さらに「静岡子ども救急電話相談」や救急車を呼ぶ目安にできる全国版救急受診アプリ「Q助」の活用についての普及活動も実施している。

富士登山の諸問題について

問 火事で消失した富士宮五合目レストハウスについて。

部長 代替施設として静岡県が新施設の整備に取り組んでおり、令和10年の完成を目指して今年度施設の設計業務を行っている。

市長 火災になる前から老朽化してきていることもあって、建て替えを要望していたうちに火事になってしまった。一日も早く造って欲しいということは何回も知事にお会いするたびに要望してきた。表口登山口として富士山の風格に見合う接待の場所にしたいと思っており、これからも知事をお願いしていく。

問 今後富士登山をどのように考えていくか。

市長 万葉集にも謳われているように日本人の信仰の対象であり、芸術の源泉である富士山。そこへ訪ねてくる人に対して富士宮市はできるだけのおもてなしをする、楽しんでいただき喜んで帰っていただけるようにという市民やまちのありようが一番大事ではないかと思う。



もちづき のりお
望月 則男
(富岳会)

一般廃棄物処理基本計画及び富士宮市指定ごみ袋について

問 人口減少、ごみ出し困難者の増加、最終処分場や焼却場の経費負担増を考えると、一般廃棄物処理基本計画だけでなく、大きな方向性を持って考えていく必要があると考え、以下伺う。市指定のごみ袋の単価として、他市よりも1枚当たり2円程度高いという状況をどのように考えられているか。

部長 業者の設定する価格での販売ということで、市場における競争原理を働かせた中で価格の設定という理解をしている。

問 ごみ処理などに係る基金の創設を提案するが、いかがか伺う。

部長 基金は、特定の目的のために準備しておく資金であるため、ごみの処理費用については、

これまでどおり経常経費としていく。

意見 ごみをただ処理するだけという経常経費的な考えだけではなく、この富士山を意識した、富士宮市だからできること、環境に対してやっているということを基金という形であれば、ふるさと納税の受け皿や環境意識向上などの明確な目標になると思う。

富士宮市における友好都市等の提携の在り方について

問 様々な友好都市提携を結び交流しているが、全般におけるテーマなどがあるか伺う。

部長 産業、観光、防災、教育、文化、スポーツ等の交流により、相互理解と親善を深め、双方の進展に資することを共通テーマとしている。

問 都市提携する基準の創設の考えはあるか。

市長 基準は千差万別あり、一定の物差しで測れるものではない。まずは民間同士、いろんな機会イベントなど交流の回数を増やし、持続性がある状況であれば、友好交流都市関係をつくっていかうと思う。